

やまかわさとみ（山川里海）の体験作文&新作狂言

やまかわさとみ（山川里海）

はじめに

水辺の情報は、様々な優良コンテンツで発信されているが、子育てファミリーにとって積極的な関わりの対象とはなりにくい。なぜなら、公教育の現場では、学力向上の他に発達障害・不登校・非行・貧困など教員が対処すべき課題が山積しており、家庭では、趣味・スポーツなどの習い事・塾通い・ゲーム機器に日常を支配されているからだ。

水辺の情報は「見る・聞く・知る」から始まり、時には命に関わり人生に潤いをもたらす重要な素材が詰まっているが、大半の子ども達が、それらを吸収することなく成長していく。一方で、小中学生の保護者が求めるのは、公教育では向上しにくい文章力やコミュニケーション力の向上だ。

また、特に水辺の歴史文化・観光資源・防災の伝承には、地域の昔を知る高齢者の知識経験が有効であるため、幼児から高齢者まで三世代の参加者が見込める情宣活動が必要である。

こんな活動やってます

- 小中学生ファミリーを対象とするヨシ原再生・水源林保全・歴史文化探索などのフィールド活動+作文

添削 → 【やまかわさとみ体験作文】を企画運営。

(2003年～2018年 34回 参加者1,120人)

★参加者のコンクール入選作は約350作品

- 成果として参加者と抽出した100年後に残したい水辺の歴史的景観・伝承・観光資源・課題に由来するキャラクターを用いて『新作狂言』を創作。

どの作品も「水辺」をテーマとし、上下流・地域間交流を担い、シビックプライド醸成の手段として、3世代に愛され、継承されつつある。

「新作狂言」が日本の水辺情宣活動として有効なわけ

- 能狂言は、農耕舞の田楽・仏教唄の声明・大陸から入った散楽を融合させて室町時代に観阿弥・世阿弥の親子が大成した日本最古の舞台劇だ。
- 主に『能』は有名人の「あはれ」を表現し、『狂言』は名もなき庶民の「をかし」を表現する。
- 戦国武将が精神鍛錬として愛好し、江戸幕府は式楽（重要な式典に演じる舞台芸能）と定め、武家社会及び富裕層が礼節・教養・共通語教育として重用したため、教授法が確立されている。
- 20～30分の短編劇で、大らかな笑いやほろりとした



感動を誘うストーリー展開のため、テーマを有するシンポジウム・社会貢献事業とコラボしやすい。

- 冒頭でキャストの「名乗り」があるので、役割がわかりやすい。
- 動きやせりふ回しに650年受け継がれた型を持ち、市民レベルで伝承しやすい。
- 豊かな感情表現でコミュニケーション力と体幹を鍛えるため、ロールプレイング（演じながら学ぶ劇）に適している。
- 自然豊かな時代背景を持ち、森羅万象を舞台道具とするため、大道具が必要ない。装束にも型があるため、着物や帯のリメイクが可能で、老人会などとコラボしやすい。
- 神様・妖怪・精霊・動物など、三世代の興味をそそる



キャストが使える。

- 能管・小鼓・大鼓・太鼓の4種の伝統楽器を取り入れ、華やかに上演できる。
- 狂言師で俳優の野村萬斎が、Eテレの人気番組「にほんごであそぼ」で14年間毎朝演じており、教科書にも掲出されていることから、高校生から幼児まで最も身近な伝統芸能である。

プロ+アマ狂言 (能楽師 + 地域の子どもたち)

- 行政機関・市民団体との協働により、10年間で参加者約250人、観覧者約1万人。
※どの作品も、ユネスコ無形文化財「能楽」と水辺地域づくりのコラボという目新しさから、メディアに注目され、制作レクチャー（学識経験者による地域の水辺の歴史文化・防災講座など）と出演者募集・オーディションの広報段階から、広く啓蒙の役目を果たしてきた。
- 重要無形文化財総合認定保持者の能楽師が制作・出演協力。
- 「夢つくり」
木曾三川の自然再生と上下流交流に取り組んできた

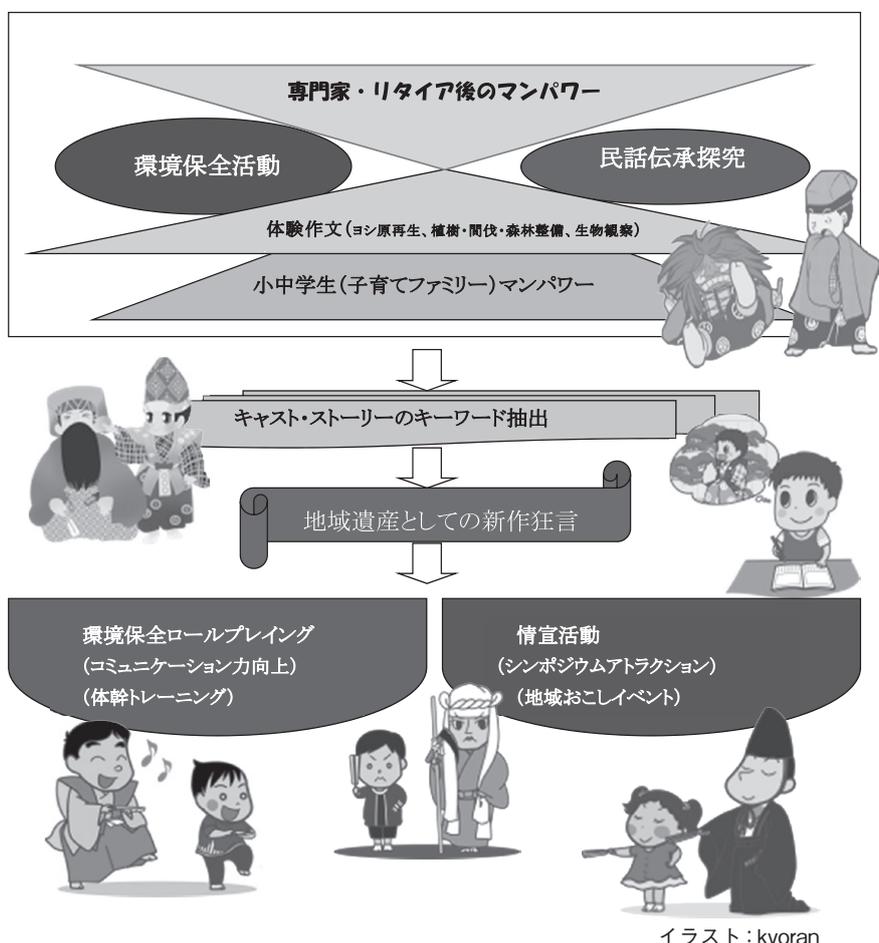


イラスト:kyoran

名古屋城本丸御殿 復元記念狂言 「夢つくり」 テーマ：水源林の保全

御殿を復元する夢をかなえたい大名に、人集めをムチャ振りされた太郎冠者。千人力の山伏をスカウトし、「ぼ～るん！ぼらり！」と祈り出させようにも、さっぱり出ないそのわけは、山神様のご機嫌が？



【出演】
 ■大名：井上勉次郎 ■山伏：野村又三郎
 ■太郎冠者：佐藤 誠/龜島俊輔 ■笛：竹市 亨

【2008年～2017年】
 上演 8回 出演60人 観覧者 4000人

なごや妖怪狂言 「冥加さらえ」 テーマ：都市河川の浄化

時は文化文政期 川の恵みに感謝する「川ざらえ」に わんさか人が押し寄せた。 イベントを企てたのは 水辺の妖怪たちだった！？



【出演】
 ■総 司：野村真吾/佐藤文彦 ■河童太郎：佐藤誠/龜島俊輔
 ■別からねこ：井上勉次郎 ■甘湯女：野村又三郎
 ■小町童：一位聖美の小学生 ■地謡：今枝裕輔、龜島俊輔
 ■笛：竹市 亨 ■小鼓：久保陽香子/上田敦史
 ■大鼓：河村真介/河村純一郎 ■大鼓：佐藤洋輝

【2014年～2017年】
 上演 5回 出演 123人 観覧者 3200人

山川里海 名古屋城本丸御殿復元記念狂言「夢つくり」 テーマ：森の保全



名古屋城本丸御殿 復元記念狂言「夢つくり」
 復元記念狂言「夢つくり」の舞台裏
 復元記念狂言「夢つくり」の舞台裏
 復元記念狂言「夢つくり」の舞台裏

山川里海 なごや堀川妖怪狂言「冥加さらえ」 テーマ：都市河川の浄化



伝統芸能
 流城住民「ふさわしい文化遺産を」
 堀川を舞台に新作狂言

筆者が、国宝第1号／名古屋城本丸御殿復元に際し、江戸期の尾張藩の飛び地として木材の供給地であった木曾山地の森林保全をテーマとして創作。着工・第一期公開・第二期公開の式典毎に、見どころを入れて改作上演。

・「轍(わだち)」

清須から名古屋まで、わずか1年足らずで7万人が1級河川／庄内川を越す大事業であったこと、運河／堀川開削によって、名古屋城と城下町の碁盤割が造成されたこと、土木功績で名高い地元出身の戦国武将／加藤清正・福島正則が活躍したことを報せる内容とした。

名古屋開府400年記念 清須越狂言 「轍(ワダチ)」 テーマ：水辺の都市創造

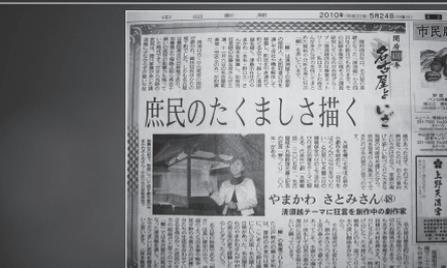
時は慶長14年 家康の命令で 清須から名古屋へ 7万人の大引越しが 始まった！ 加藤清正はじめ 諸大名や商人たちは 本音と希望を胸に...



清須越し商家の太郎冠者：佐藤友彦
 加藤清正の手下：佐藤 誠/大橋剛夫
 福島正則の手下：今枝郁雄

【2010年～2017年】
 上演 7回 出演35人 観覧者 3500人

山川里海 清須越し狂言「轍(わだち)」 テーマ：水辺の都市創造



庶民のたくましさ描く
 やまかわ さとみさん
 清須越キマワに狂言を劇作中の劇作家

・「冥加さらえ」

第二次大戦後の高度経済成長期に汚染が進んだ名古屋堀川の浄化運動に、筆者が10年来関わったことから、流域のチャーミングな妖怪をキャストに仕立て上げ、文化文政期の「川ざらえ」をモチーフに創作。名古屋城・豊国神社で子方オーデションを催すなど、広報・稽古段階から啓蒙に寄与した。

なごや堀川狂言会(主催：堀川狂言実行委員会)、名古屋城夢つくり狂言会(主催：名古屋城本丸御殿PR実行委員会)、名古屋市指定有形文化財／鍋屋上野浄水場「水フェスタ」(2017/6/5 主催：名古屋市上下水道局)などで上演。

子ども狂言

・「失せうろこ」

地域住民・教職員との協働により、小学校総合学習で2008年から取り組んでいる。

6年生全員がそれぞれの役割で取り組むため、不登校ぎみの児童も練習日には登校する。

木曾三川子ども狂言 [2008年～2017年] 上演：22回 出演：460人 観覧者：3400人

「失せうろこ」 テーマ：治水史跡と清流魚の保全



かんしゃく持ちの龍の子は、木曾三川の主になるために、寝れぬからしたうろこを探してやってきた千木松原でも大嵐れ！そこに現れた松から川の理と釣りをおぼるうちに、サツキマス釣りを上げると、アユ・イワナ・アマゴがやってきて、必死の命闘い！さて、どうする？？



名古屋城、上下流交流、県外公演を含む年4回の定期公演をこなすまでに成長した。

•「狐鬼灯」(きつねほおずき)

輪中の人々が、集団と個々で命と暮らしを守ってきた防災文化を伝えるストーリー。

輪中に残る様々な伝説、鎌倉時代の和歌、郷土食も取り入れている。

小学校の総合学習で2016年から取り組んでいる。



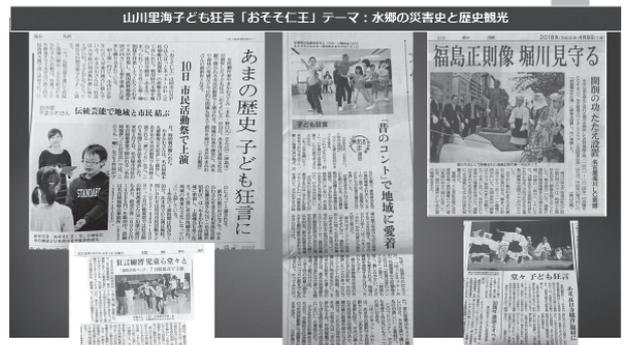
•「おそそ仁王」

子育て・地域おこしNPOとのコラボで、水郷地帯の歴史観光PRを念頭に置いた。

国の文化財として残る社寺の歴史は、倒壊・建設などの記録から、そのまま災害史を物語る。

郷土の英雄／福島正則が、生誕地の名刹に仁王像を寄進したのは、清須城主となって故郷に錦を飾った時期であるとともに、天正の大地震・木曾川の大氾濫の復興と犠牲者の鎮魂の時期でもあった。そこで、未曾有の災害史を練り込んで、防災・街づくりの専門家によるレクチャーと共に発表できる狂言を制作した。

2018年から、愛知県あま市立正則小学校も総合学習で継承する。



地域をつなぐ／熊本復興応援

・「轍(ワダチ)」「冥加さらえ」

加藤清正の生誕地の愛知で熊本復興狂言会を開

「なごや妖怪狂言」カッパ子役を募集

尾張出身の戦国武将加藤清正を主人公にしたNHK大河ドラマの実現を目指す市民団体「加藤清正公を大河ドラマに愛知」は、九月二十二日に名古屋市中央区の名古屋能楽堂で行う狂言の子役出演者を募集している。応募は二十八日締め切り。

「なごや妖怪狂言」カッパ子役を募集する。子役募集のチラシを掲げるやまかわさん(左から2人目)と団体メンバー。名古屋市中村区で、ののうち、子役を募集するのは名古屋を舞台にしたオリジナルの物語「なごや妖怪狂言 冥加さらえ」。名古屋にゆかりのある妖怪カッパなどが登場して活躍するストーリーで、作家のやまかわさんと加藤清正の子役は十二人で、カッパの子ども役。同市中村区の中村文化小劇場で五月九日に行う稽古必ず参加できる小学一、六年生が対象。出演者は、来年一月二日、名古屋能楽堂で開く予定の名古屋城狂言会に参加できる。狂言会には野村萬

書類選考を通過するおと、五月十五日に中村文化小劇場でオーディションがある。やまかわさんは「出演をきっかけに、お子さんに元氣を伝えることができたい」と話す。(名古屋神社)0003(天田慶里)

催。(2016/9/22名古屋能楽堂)

■ゲストスピーカー

湯田栄弘(熊本城加藤神社名誉宮司) 他

加藤清正公を大河ドラマに愛知

能楽特選 あいち戦国武将Lab

名古屋能楽堂 特選伝統芸能鑑賞会

子役出演者募集

応募締切：平成28年 5月6日(金) 昼前

4月28日 5月15日 太閤まつりにてオーディション開催! 16:00~

狂言 轍
なごや 冥加さらえ

オーディション開催日と会場
平成28年5月15日(日)16:00~ 中村文化小劇場(太閤まつり中)
募集人数 下記の稽古及び公演に必ず参加できる小学2~6年生 全12名
募集方法 A4用紙に参加費と保護者氏名・住所・電話番号・年齢・学校名・学年・特技・得意な科目のうえ、写真裏と返封ハチキを同封して、下記住所まで郵送願います。
〒453-0053 名古屋市中村区中村町字本下通
狂言神社(一階)受付 5月6日(金)必着です
※写真裏に氏名・返封ハチキには参加者の宛先を必ず記入(ただし、必ず書かれた書類の返却は致しませんのでご了承ください)
※お申し込みは、狂言神社 052-411-0003(10:00~17:00)
※発表 オーディションから一週間以内に通知します。
稽古及び公演日程(予定) 名古屋市中村区中村町字本下通
中村文化小劇場 17:30~19:00(休本・休日無開演)
5月26日 6月9日・30日 7月7日・21日
8月4日・25日 9月3日・10日・11日・15日
名古屋能楽堂 名古屋市中村区中村町字本下通
9月17日(土)午前中 22日(木・祝)公演当日
※平成28年9月22日(木)名古屋狂言会(協賛者:野村萬蔵会)名古屋城狂言会にて上演される(冥加さらえ)にも出演予定)

会場のこだわり
名古屋能楽堂 名古屋市中区三の丸一丁目1番1号 TEL:052-231-0088
交通案内) 地下鉄 鶴舞線(浅間町)下車 1番出口名へ徒歩約10分
地下鉄 名城線(作乐町)下車 7番出口名へ徒歩約12分
市バス(名鉄東山線)下車徒歩約15分(徒歩約15分) 名鉄バス(名鉄東山線) 名谷駅北口バス、メーブル(名鉄東山線)下車まで
名古屋市中村文化小劇場 名古屋市中村区中村町字本下通
〒453-0053 名古屋能楽堂 TEL:052-411-4565
交通案内) 地下鉄 東山線(中村公園)下車 3番出口名へ徒歩約10分
市バス(名鉄東山線)下車徒歩約15分(徒歩約15分) 名鉄バス(名鉄東山線) 名谷駅北口バス、メーブル(名鉄東山線)下車まで

このチラシは古紙ハルプを再生紙を使用しています

会場 名古屋能楽堂
日時 平成28年9月22日(木・祝) 14:00~16:30
主催(協) 加藤清正公を大河ドラマに愛知
名古屋市文化振興事業団 (名古屋能楽堂、中村文化小劇場)
後援(協) 中日新聞、名古屋観光コンベンションビューロー、商工会議所、観光協会など

加藤清正公を大河ドラマに愛知

清正公のふるさとより、熊本の復興を応援致します!!

あいち戦国武将Lab

名古屋能楽堂 特選伝統芸能鑑賞会

歴史講演会

「清正公と愛知の武人たち」

講演者 野村萬蔵 野村文太郎

講演時間 14時 (開場 13時30分より)

◆入場料(全自由席) 4,500円(税込)

入場券は平成28年7月1日(金)より下記にて発売開始!

名古屋能楽堂 TEL:052-231-0088 (9:00~20:00)
中村文化小劇場 TEL:052-411-4565 (9:00~17:00)
名古屋市文化振興事業団チケットガイド
TEL:052-249-9337 (平日9:00~17:00)要予約
名古屋市文化振興事業団市民管理運営する文化施設窓口
※「加藤清正公を大河ドラマに愛知」ホームページ <http://ajiyama-ochi.com/>

会場 名古屋能楽堂
名古屋市中区三の丸一丁目1番1号 TEL:052-231-0088

地下鉄鶴舞線(浅間町)下車 1番出口名へ徒歩約10分
地下鉄名城線(作乐町)下車 7番出口名へ徒歩約12分
市バス(名鉄東山線)下車徒歩約15分(徒歩約15分) 名鉄バス(名鉄東山線) 名谷駅北口バス、メーブル(名鉄東山線)下車まで



Photo : Tamura Katsuya他

地域をつなぐ／薩摩藩×高須藩×高須藩／
海津市×中津川市

・「失せうろこ」 歴史的・地理的つながりの交流公演
を实践中。

狂言
ちょ～楽しい！



いつかニューヨークで
公演したいよ～！



薩摩藩 宝暦治水 治水神社大祭公演



名古屋城 兄弟藩公演



上下流交流 中津川かしも明治座

魅力を発信する／名古屋城

・「夢つくり」「轍(わだち)」「冥加さらえ」
水辺三部作として【名古屋城夢つくり狂言会】で
上演

(2017/2/2 主催:名古屋城本丸御殿PR実行員会
於:名古屋能楽堂)

平成30年、名古屋城本丸御殿の全体公開を記念して、尾張藩ゆかりの狂言師に、野村萬斎が参加し、新春に相応しい数々の名作狂言をお贈りいたします。

●夜の部 午後6時30分開演
●昼の部 午後2時30分開演

●夜の部
轍(わだち) 午後6時30分開演
夢つくり 午後6時30分開演
無太郎 午後6時30分開演

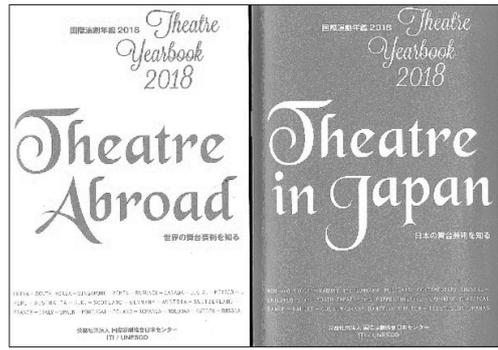
●昼の部
夢つくり 午後2時30分開演
轍(わだち) 午後2時30分開演
冥加さらえ 午後2時30分開演

野村萬斎 鹿島俊裕 野村又三郎 井上松次郎 佐藤友彦

公演のお問合せ 名古屋城総合事務所
TEL 052-231-1700 (午前10時より午後5時)

会場 名古屋能楽堂

・文化庁:国際演劇年鑑2018に掲載。

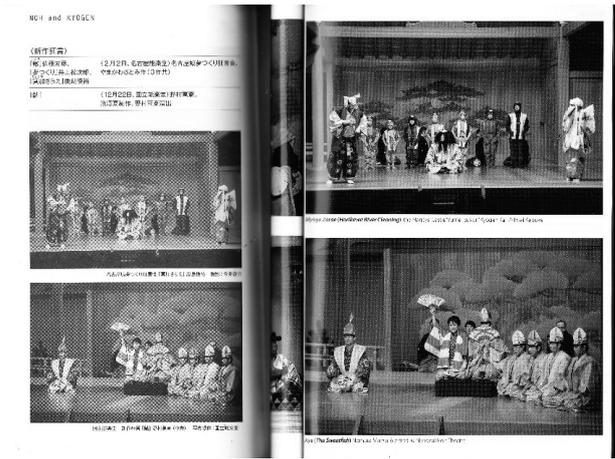


New Works for Kyogen

Wadachi, (The Wheel Furrows) with Sato Tomohiko, Yume Tsukuri with Inoue Matsujirō and Myōga Zaree with Kashima Toshihiro (All written by Yamakawa Satomi). Ayu (The Sweetfish)

(February 2nd, Nagoya Noh Theatre) in the Nagoya Castle Yume Tsukuri Kyogen Kai.

(December 22nd, National Noh Theatre) Nomura Mansai. Written by Ikezawa Natsuki and Directed by Nomura Mansai.



中 飛 昇 屋 2017年(平成29年)1月17日(火曜日)

3部作一挙上演
名古屋城新作狂言
来月2日 野村萬斎も来演

児童文学・創作家のやまかわとみさん、愛知県津島市と名古屋の狂言師たちとが地元元々の歴史、伝承と環境問題を絡めての10年間、に制作した名古屋城新作狂言「三部作」が、2月2日、名古屋能楽堂で開催される「名古屋城夢つくり狂言会」で、一挙上演される。野村萬斎も来演。古典の人氣作を生かして

特別公演だ。三部作は、それぞれ「ミカ」(鹿島俊裕)、「夢つくり」(井上松次郎)、「無太郎」(佐藤友彦)。「轍」(野村又三郎)の4部作。同6時からの夜に制作した名古屋城新作狂言「三部作」が、2月2日、名古屋能楽堂で開催される「名古屋城夢つくり狂言会」で、一挙上演される。野村萬斎も来演。古典の人氣作を生かして

活躍する堀川奇談「冥加さらえ」。一挙上演はこれが初めて。やまかわさんは「地域に愛される狂言になった」と手応えを感じる。演出を手掛けた、主演する狂言師の佐藤友彦は「二度、二度と上演するたびに練り上げられた、狂言としてまとまった形になってきた」と自信を見せる。

午後一時半からの夜の部は「轍(わだち)」「夢つくり」「無太郎」(井上松次郎)、「冥加さらえ」(鹿島俊裕)の4部作。同6時からの夜の部は「夢つくり」「轍(わだち)」「冥加さらえ」(鹿島俊裕)の3部作。各名古屋能楽堂事務所(電話052-231-1700)。(長谷義隆)

防災を発信する／研究者・河川管理者とのコラボ

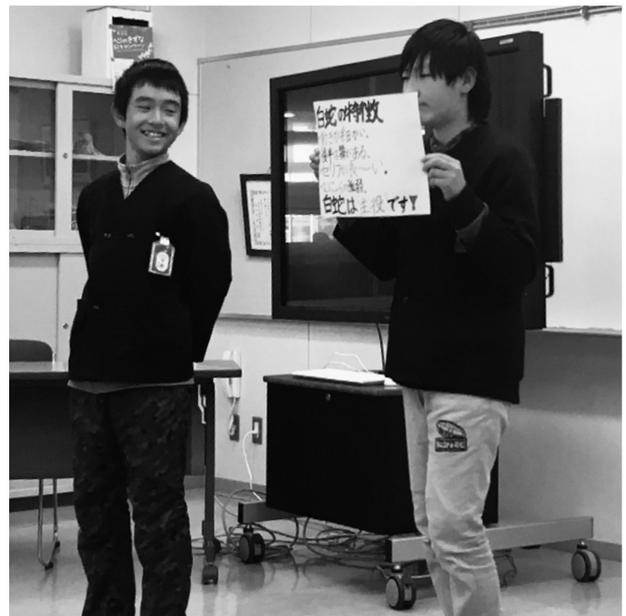
・防災・街づくり研究者を招いて「おそそ仁王」上演
2018年 2月12日

<南海トラフ被害想定>

活躍する堀川奇談「冥加さらえ」。一挙上演はこれが初めて。やまかわさんは「地域に愛される狂言になった」と手応えを感じる。演出を手掛けた、主演する狂言師の佐藤友彦は「二度、二度と上演するたびに練り上げられた、狂言としてまとまった形になってきた」と自信を見せる。



• 河川管理者を招いて防災研修 「狐鬼灯引き継ぎ
稽古 2018年2月27日



進行中プロジェクト

- 熊本復興狂言・・・熊本で今も活用されている土木遺構の企画者：加藤清正の功績を掘り起こし、復興の糧となる狂言の制作。
- ★加藤清正土木遺構：熊本城石垣、馬場楠井出の取入口、馬場楠井出の鼻ぐり 他



- 山形庄内狂言・・・中世の地質学者的な役割を果たしていた修験のメッカ「出羽三山」の開山にまつわる狂言の制作。
- ★開山の祖で聖徳太子の従兄：蜂子の皇子の為人と功績を軸に、豊富な水資源を生かした庄内の魅力を表現する。
- ★能狂言に登場する山伏の多くが、出羽の国で修験を修めたという“名乗り”で始まる。



やまかわさとみ (山川里海)